

大林組の一般廃棄物最終処分場への取り組み

大林組は、広島市全域を対象とした一般廃棄物最終処分場「恵下埋立地(仮称)(第I期)」を建設しました。



施設名称	恵下埋立地(仮称)
施設分類	一般廃棄物最終処分場
埋立品目	焼却灰、家庭系・事業系不燃ごみ、不燃性残渣
埋立面積	110,000m ² (内、I期40,000m ²)
埋立容量	1,600,000m ³ (内、I期350,000m ³)
埋立期間	約30年間
供用時期	2024年度末開設予定
事業主	広島市
施工	大林・洋林・宮川建設工事共同企業体

特徴① 集中豪雨に対する土砂災害防止対策

近年、広島市では集中豪雨による土砂災害に見舞われている※ことから、最終処分場の沢部に土砂流入防止施設を整備しています。

※「平成26年8月20日豪雨 広島土砂災害」
(当時、観測史上最大の121mm/hの降雨を記録)

土砂流入防止施設概要

- ① 砂防堰堤・谷止工
設置数量 : 11ヶ所
堰堤最大幅 : 47.0m
堰堤最大高 : 11.4m
- ② 高エネルギー吸収柵
設置延長 : 約500m
高さ : 4.0m



凡例
○ : 砂防堰堤・谷止工
— : 高エネルギー吸収柵

特徴② 多重遮水構造による浸出水流出防止対策

多重の表面遮水構造で浸出水漏洩を防ぐとともに、万が一浸出水が漏洩した場合でも、貯留堰堤直下の鉛直遮水壁により地下水の拡散を防ぎます。

多重表面遮水構造

底面遮水構造 : 二重遮水シート+ベントナイト混合土層
法面遮水構造 : 二重遮水シート+高分子系自己修復マット
漏水検知 : 電気検知システム

地下水拡散防止機能

鉛直遮水壁 : コンクリート地中壁+岩盤グラウト

鉛直遮水壁仕様

- ① コンクリート地中壁(GL-10m以浅)
構造 : 重力式擁壁
- ② 岩盤グラウト(GL-10m以深)
構造 : 幅5m、深さ15m~28m(不透水層根入れ:2.5m以上)
難透水層(岩盤地盤)にある微細なクラックにセメントミルクを圧入し、遮水壁を構築。

